現代の資料

永代日記帳 (抄出

[1]

佐々木忠夫家所蔵

一諸国大名小名松平之苗字称用正月十五日(慶応四) 候事 被仰出幷二軍隊 隊二 付菊御紋御旗御免 候分御 除余之本姓 相 改

尾道迄之内合戦徳川氏大坂之城 御元服ニ付大赦被仰 H 逃去正月 八 H 八 幡

戦大坂 級御城内 = 丽 武忌類其外ひら い取候も の数志ら

ず

伊予松山 讚 (岐高松勢州桑名陸州会津備中松平 Ŀ 総 大

H 并

一事務総督芸州送 居正月 石逆賊同意ニリ 什 屋 敷被召上 残兵追放被仰

H

一辰 第四章 近・現代の資料 樣被仰蒙候

> 一寺々大竜で同四月十七日 理候義不差旨な 被 仰

> > 出

務共五

月廿日御免之趣御

出

候

一金銭 相 見 但 場都 去ル子年御差留 被仰 出 位朝廷 ニ相成候所

態中 遺 ス

紙之通 得共神 神職之者家内ニ至迄神葬祭之儀先達而 = 付而者右趣相改候分江当り宗門手形差出 り書附被仰 職之事ニ 付宗門書附 差 出 L 不申段 従朝 毎 廷被 歳改之節別 候 = 不 仰 - 及候 出 候

出候様

田

申

聞

\$

0 也 合

1

月四 日

辰

九

御

設所

諸 口型了 四 " 切

割庄屋四人

587

覚

宗門 御改被仰 茁 候得とも私神職之者ニ 付宗門書付差

出し不申 候以 Ŀ

辰 八 月 何 郡 何 村社人何 某

知郡局御 代官 所広島御 城内御 本丸御 玄関之処諸郡

手相 成

志和 御 普 請 = 付諸 人出入不相

殿 様 御步行 愐 在 々御見合被遊候御 人数五七人位村

次 役 人人御 目 通 L 御 意被 為 在 候

一辰 御貸付米銀御斉被下拝借米銀御 御手当ニ 被遊候事 一被仰 取立於郡

郡

中難渋

八十歳以上男女御 改并二 鰥寡孤独可便者無之窮民 御

一郡村諸入役御ば辰極月十四日が志らへ 旨御代官佐藤保太郎様 減 l 御一 新 村限り庄屋社 三付御 法則 御立 倉十 替 人組頭取 = H. 被 成

年号改元明治元年二 与頭 4 被仰 長百姓給役五 渡印 形 御取 心被成 一人改 成 候事 示残 ル当度な御 村 御 呼 × 御 出 廻 世 村 K 号ニ 名 前 成 御 読 ル

一辰

一 同

一氏神八幡宮拝昭九月 殿 再 建 材 木 御 伐 渡 L 普 請 始 X 大 I. 木

米三 石請

伊 勢曆当年 6 御朱印付候事右 = 付御 初 穂増 1-ケ 申

一銀壱匁ニ付一部を入って 銭百 六十文通用 被仰 出

村方米相 場 石 ||壱貫 目 11,

六倍五割增 相

一明 郡廻様御通行筋ニて役宅が二巳正月御触る情銭元御定ニ六倍五割と ~~ 勿論 成 農家 = 而 \$ 御休 泊

П

一同 殿樣御武運御長久万民 正月 相成差支無之引受可申 運御長久万民安全三日三夜御 先触なし之事も 祈 可 壽氏神 有之被 -仰 而 出

一若殿様御上京場十七日 屈

—同 御 船 = 7

郡 用 所相 止 諸 郡 共 郡割 郡 府 = 而割 庄屋: 村庄

立

-- n 割正用 庄月御 役所と唱

屋

廻達書状宛村々役人へ様付

相

止

村

X

与.

頭

殿

屋 分江 n

F

付 那之内村 書 『状宛庄』 マ新開 所御高付御竿入二 是迄之通 相

成庄

屋

健

太郎

挽

一米壱石ニ付銀壱貫百五拾目御正月十六日 済帰村 郡中八十歳以上之者并孝子寄特者共昨年御巡村之節 触 出

利済様御付添山 被遊候ニ付弥 被下もの有之候 々郡村へ 岡蔵之丞様原田武兵衛様御巡村 処諸郡不残御巡村 御名代として湯川忠義様中井 不被為相済御 海 上京 田

市る二タ手ニ相

成左之通

二月十日夜十一日昼迄当家御泊昼中井利済様山 之丞様御上下外ニ 人当家御 構 而十一 御調役御三人御小人壱人都 日朝役人長百姓座上御応対御 合御拾 岡 蔵

談し済八十 歳以上孝子之者庭上江御召出し被下物左

之通り

八十八歲以上

吉右衛門

正金弐両

壱人扶持ツ、

三右衛門母 太郎左衛門

伊 7/2 13:

八十八歳以上死亡之者江正 八十歳以上之者不残正 金弐両 金 " Ŧi. 一両被下 被下 佐七 幾蔵 母 母

第四章 近・現代の資料

> 孝子六人之者江 利 助相果候得共同樣被下 Ī 金 三両 ツ

右御用済十一日夕焼山村御泊 庄屋健太郎 御竿入御用 = 付出 勤 留 主

而件久太郎

宿主として御門前迄袴着用 罷 出

一正金万石高ニ付弐千五百両割合を以朝廷御上七月一御家中知行所が給主へ収納先ハ見合被仰出七月十地人民高戸数飯藉御奉還一土地人民高戸数飯藉御奉還一般様二位権中納言御宣下被仰出

出 候二付凡半方町方残五万金諸郡 石高ニ応し上 一納被

被仰

仰付尤換金金札御引替

一神職之者通称国名官名等可被差止旨被仰七月 但徳川金之分なくてハ上納不相成候

一夏壱歩半納米秋延米納御願六月 一御山目附役之者一同御廃止七月 但是迄之分も早々 相改可申改名之趣可 IL. 出

|七ツ米ハ是迄之通

順申

Ŀ

一御聞

届 ケニ

相

成

米石ニ付壱メ九百目位

但徳 川 金 壱 両 = 付三百 目 位 被 下此 金 = 愐 六両壱

御 換米金難 両壱弐歩迄之分借入庭々ゟ差出 調 = 付秋米見込売ニして徳川 ス 金 趣 -而 石 Ŧi.

御換金金札御下渡しニ 両 方五 相 成

御名代として川崎真寛様安芸郡御巡村庄 屋健太郎宅

御

止宿七郷村々庄屋与頭長百姓

五.

人頭迄御寄村ニ

丽

御直筆 ·御読聞其 趣土 地人民飯藉御 奉還被遊藩 知事之

職被為豪仰是迄之土地人民共御領分其儘御支配可被

遊との朝令下り候上ハ忠孝人之道相守候様御直 筆 其

儘写御下 ケ渡七通之内庄屋両 .人与頭四人給人出役壱

殿様御城 人メ七通夫々相渡し置 内御 住 居御 差 1 御 丸御 住 居日 々御登城

被為遊候御触

郡御奉行郡廻り御代官之唱御 廃 止

郡宰県令長県令之唱御役名 始 而 御 触 有

御家中 御家中名乗唱 知行所収納相止 メ 同御蔵入被仰付

> 但当年 限リ 縄 俵取合不苦被仰 出 候

御名代様御巡村ニ付御賄 御直払郡村足之無之事 代并御荷物送リ夫等迄当分

村々神社御真躰何之命と申義且御木像金像幣石之類 御改仏名之唱分改替被仰出

社人号神主号 Ė 相

村 是迄寺社筆順社号二 々免割小 帖有実ニ 成 改 N 12 _. × 帖 面 御免許之上ならて

一本往還瀬區 1 免許不 相 野筋を止メ熊野通リ 成 事 可相成見積図面

差出

方

被仰付

百姓

人別諸口壱枚通ひ相渡事始る御年貢済付も□□

事 是 ハ当村 限 IJ 申 値

一庄屋健太郎安芸郡中明治弐巳十月十六日 一社倉穀追加被仰出

殿 様 を知事様と奉 唱 候様 組引受社倉支配役被仰蒙 被 仰 出

中

御給知御蔵入ニ相成候得共秋口迄給役相勤居候者 組合割庄屋 1 候得共勤 番 割庄屋 御触 出 L = 相 成

590

与. 頭 同 格 祐 PU 郎 与引受割庄 屋頭取呉村 5年兵 衛 殿 がか申

来 ル

秋作凶 明給 御 年 蔵 入 御 而 勘定十二月二 同難渋暮取立 日 相 御 場石 聞 届 1 弐 / 四 無滞 相 百 済 H か

悪金御引替 座 上頭盲 女居扶 可 相 持 米 成 村足 ニ付取約 L 相 出 止 x L 方被仰出

伊勢正遷宮寄附頼来先年 八高二付銀三 分五 ケ年 割

ケ 年 割 等 = 有之当度 続 牛 被仰 付

仏護寺出雲道隆寺 熊野 高 野 1愛宕右衛 御初 穂免割 = 候 処

一百姓高売買帖切用ぎ十二月十三日ゟ十六日を□続キ被仰付 所迄 -而 取 計

油絞勝手次第御 郡免割役人諸給米諸 聞 届 出 付手前とも御免許を受ル 飯 設 法 被 仰 H

但 夫割引高腰付 米 相 11-

右 御改此 6 帖 面を以 四 1 " 村 X 相 渡 1)

天下大赦

虚 無僧山 伏等木銭 村割相 正自 分済被仰

第四章 近・現代の資料

> 御 家中 御 知行相 11-上 1: 六拾石中士廿五石御歩行

組

を

下土 拾 Ŧi. 石 E

郡御役所元御広式江 御代官を県令と唱 院事ニ 替 ij 候 候処当改替権 事郡 中 役 1 飛 大属 脚 と唱 諸 用 候 = 付 事

一差出帖御改二十二月 一志和柵門番4 同 所ニ 罷 出 人等御 候事

廃

止

勝手二入込従前之通

IJ

被仰

出

「帖御改ニ 入用 付相志らへ 諸給 共 御規 帖 面 則 差上 帖 を以 ル 被 仰 出 改

米石 -付弐貫九 百目

金札壱両ニ付弐百七拾目位

元定メな

一坂西大雨池樋替御台午三月御代官御見分但正金銀通用空 残御銀渡リ郡夫四 歩方村夫六歩方入詰 免許大工木挽扶持作 余リ内 料 釗 鲛 ts 代 IJ 共 江 不

被 造候事

先般御俸録返上 但 出 出役 矢野 村与 = 付 而 頭久太郎 (元知

行 所請役

同

御

役 所

6

御差免御 触 状 を以被仰 出

一矢野宮崎新同正月 開幷大井新開 共御竿入健太郎出勤被仰

相勤

ル

一海田駅伝馬銀趣法基立出銀いたし候者へ御賞格式被同三月

什

但札三メ目ニ付格式壱官上リ之事

麦作近年ニなく豊作 有麦帖有実調始 而 相 改

米石ニ付三メ六百目 肋

当御免状御下ヶ渡し 御倉入高弐千五百五拾八石 1六斗

一与頭祐四郎助左衛門両六月七日 五升と相改 人増五人ニ 成

同格連名 加印 なし

一□千田村御役所 出候事 = 相 成当割庄屋中勤番詰之分加印有之候事御 相 止已後用郡御出 張所と相認 メ差

出

六月九日諸 小物成銀并二諸職人水役運上銀共下地 相

定リ居候銀を石六拾目之米ニ相改米上納之事被仰

茁

閨

十月廿二日御触

出

Ŧi.

日

1-

棟御出張所注進御

六月壱歩七厘米取立方六ヶ敷ニ 付当村之品高壱石 =

新麦石壱メ五百目内外 付麦弐升取立ニメ売払御差紙買入上納取計候

> 寺 々明 細 御 志ら 朝廷な

御藩内修験者米麦出来秋|-五月ゟ| 藩々郡村諸上納物御志ら 延喜式内帖所載之社御志らへ 納物御志らへ 帖 朝 廷へ上ル 朝廷な

与頭祐四郎当村庄屋半役被仰付:閏十月六日 伊勢暦配り御厳禁被仰出1四月

П

在御差留

一同一同

郎与頭被仰付庄屋格岩助与頭同格千兵衛両 先庄 屋謙 次郎 人增与頭

成 12

一修験麦秋廻在被差止之~~ 同五月 被仰付都合与頭七人ニ相的

自今平民苗氏被差許候事庚午九月太政官別紙之通従 朝廷被命候二付商家之号之義者是迄之通相称苗字之

義 者都合二寄勝手二相唱不苦候条御触出

但 |医士等之義者家号を廃止苗字相称不苦候 事

閏十月九日八幡社柱 建同 #

右ニ付もち弐石三升八合搗内九斗梶 出 御 泊 1) 翌 日 御引取

八合城二而搗大工木挽四十五人之者并役人長百姓等

山ニテ壱石三升

一右同夜八ツは 其外村 中 家別弐ツ ツ 配 IJ 餅 11 た ス

屋 一灰小屋焼失牛壱疋焼死翌日灰寄庭々ゟ来ル 一時頃 庄 屋宅牛屋後口 お出 火ニ 而居宅牛

馬

村長屋広しま出 中 村 |庄山田沢原大屋村中島屋坂村森本や府 三雲屋 日村中 口 所柳平上 セ 0 村 村 磯 野 村 津江 村

右

-

付川

角平谷焼山押込苗代栃原奥海

田 矢野

船

越并

右村 マ火事見舞として罷 越ス

木畑賀村江丸田

土井寺家

右ニ付牛馬屋再 建入用 材 木 切 呉 地 内 地 元より合力

木取 同庭惣百姓 出催 取

右 田 火跡七庭ゟ手山 材木すもとなわわら竹等 持寄職

御役人御変改沼田安芸佐伯 出 催小屋掛三日之内ニ取調当分住 Ш 原四 郡 受ニ 相 成大属

壱人権大属壱人小属壱人権小属弐人史生三人合八人

御 御定 城郡マ メ調役十壱人付已来使部幷同 郡マ 政 局 ヲ 農務方 相 改 1) 候 補 = 相改候 事

1

郡 K 用 郡 出 張 所御 引払

駅 A 御茶屋御売払

四章 近・現代の資料

> 一百姓腰林ニー明治四未正月 人共限リ付 届ケ 而 家材木樋 遺し已来山林方申 木橋木普請 出 入用 三不 願 及並 出 候 に売 得 1 役

務方
を御触出し有之

伐取せ候分

ハー

ケ年分取

約

メ御定之運上

差上

候

事

一村々戸 惣員数男女分之增減 ,数人員月々相志らべ百姓社寺医師) 毎 月 帖 面 = 農務方江差 浮 過革 L 候 田

事 共

= 被仰 H

用 御 山方ヲ 郡所ヲ農務方ト改 Ш 林方 ト改 X

村々大中小之社建物境内町 間御 改

神主代数并抱之社数御改

社内に有之仏体取除

ケ当郡之社僧ヲ除候事

寺内ニ有之社神別 所 ヲ 構神 主引受之事尤寺院 鎮守

不苦候 事 H

神号不相

成但寺境内

=

有之社寺ト社ト分地致候

一諸国神: 社 村 次 氏 神之外合併被仰 出 但 氏神境内二 一有之

社 N ふたつ大年社竜王社大年社若宮社右六社 其 儘との 御 触出 付当村氏三社之外す へ小詞 か社八

主

合併 御 順 取 約 メ尤銘 4 壱人持境内之分ハ鎮守 = 付其

との

氏 八 幡 幣殿 瓦葺 調 広 しま 御作 事 瓦葺受合二 而 北瓦

切 一菊間 調矢野 屋庄蔵口入

御家中之面

1

御役

用

Ξ

付御書状是迄様付ニ

候処午秋

一自今平民乗馬未四月御触出し ゟ都而殿付 = 相 改 IJ 候 事

辛未 一四月 被差免候 大政官 事

一神武天皇御祭典未四月大政官よ 海 内 同三月十一 日を以遵行遥拝式

一神社合位4 同六月 ママ 相定神 |帖根控郡用所ニ有之写村方へもにアキ郡七十余ヶ村ニ相認メニ相成候

IJ 候

旧 胡 社 1 御 合金、 除 丰 = 相成候事 并 二銘 々境内有

一同一同 一旅行之者士哲一株行之者士哲一寺院境図面が 畝高委密 御志らべ 調 出 ス

族卒農工

商

E

下迄

御印

鑑

相改候事尚

請引

之壱人持神社

ハ其者鎮守

= 一付合併

除

丰

ハ御布令ニ 有之候

一百 文明開化復兵農一ニニ六月 メ天下事有ハ兵ヲ農ゟ出シ事

7

奥 力 海 V 田 1 農ニ 村 越山 復 之者被捕候得者過 し等之事 一件藩 知 事 料 ∃ 銀 IJ 被仰 拾 H 出 取 ル 遣

来米 居候 五斗 処当時諸色江引合不申ニ = 直 し呉候様駈 合 来リ 付 候 依 :御定メ相場を以已 丽 与頭 菊右 衛 相 定

IJ

定 同 一村与頭武次郎方江差遣同村示し合之上 メ候事七月盆後長百姓源次郎を以相決候 米三斗 処ヲ承 =

相 ヲ

一殿様事知事様と相唱に日十五日之事と候事 候処東京御住居被仰出 = 付 御 家

族様迄も国方御引払御上 而 沙汰相 成候迄ハ大参事以下先ッ是迄之通取 京被遊候 知 事 職 御 免 国 政 追

申 御 触七 月 晦 Ħ 割庄 屋 麺村 = 而 被申 渡候

相

御

但 諸 __ 統之趣被仰 出 候 也

諸向御役人郡出之節人足賃銭藩札 = 而不都合ニ 付已

来正 銭払未六月被仰出

受引 可 致被仰 H 候

金銀貸利足御定

ノメ御

廃

ī

相

対を以取引注文ニ

書

カン

---同 平民 福高 袴長脇差御 差留 御 触 有之

殿様始メ少将様東京御移住被仰付八月四日御出船

触 辺島 が出し 相成候処山県郡佐伯高田高宮当郡筋辺并町 海 陸 江. 麗出 御 留 リメ申 度 御城内江 数 方

付其儘御引帰 L 御留リ 被為在右数万人酒飯貯 出 寺 町

人入込竹丸様御門

前

而

御駕興先キ

~ 上

書差出

候

辺迄 に逼留 追 1 殿様 も御帰城 被 為在 候様 願立 候 趣 相

民候事

右ニ 槍を携出役人共宅を打破リ又へ放火及帖面等取 付諸郡 村 動 謡マ い たし 皆 × 罷出 心 得 達之者 出し 竹

一平民襠高袴幷割八月十五日 人ト申様 御 出 羽織 着 用 可為勝手旨被仰

H

=

付追々御取鎮右体之者

ハ御召捕

所々へ

五百人三

諸役諸小物 成銀 六拾 目 相 場 米二 直 1 納 相 成 居 候 処

分も御立直 未九月右者更ニ銀を金上 し被下候と申 事 納ニ被仰 御 触 H 出 二六月上

納

相

成候

穢 仰 (多非人之称被廃身分職分共平 出 民同

辛未八月

同

+

月

+

日

被

触

出

候

#

日相

廻

候

元御吟

1

ナ

n

日

申

渡

第四 音 近 現代の資料

> 一新貨幣御鋳造初而全同十月一伝信機御役英人ホ,同九月 金銭廿円ゟ壱円迄 ノイ御雇入東京な長崎 銀 銭

> > 円

が壱厘

--同 伊九銭 勢月迄 両宮ヲ始 銅銭とも x 般御開 日 本国 キ御 中 諸 布令相 社 神職村 成 邑社人ニ至迄

一瞬 廃止 被仰 H

—□ 一百 諸郡壱歩米当未年 寺々宗門手形御廃止被仰]月 より 御取立 出 御 差 止

諸郡 戸藉人員年齢御改被仰出区 村 々之内山高闉高当未年より 々家別標札懸ル 御免除 被仰 牛 被 事 仰 = 相 出 尤 成

相成ニ 享保已前御取捨有之御免下々分等御調之上 付先当年之所是迄之通上 相成候 御

→[i] **→** 御小人御廃止卒ニ御引直し被下 十月十月七卒役刀不苦人員ヲ伐殺等御制

元御 役所ヲ農務 方ト 相 唱 候処今般民

被下候事

革被相 成

様

たる

へき旨

御年貢諸 元御勘定所会計局 味役所糺弾所此 Ë 御引受役 唱 工 度刑 所ヲマ 相止 律係 租 出 一納係 税 係 1 1 成 成 ル ル

諸書付半 紙認 メ相止 諸 口竪紙調候事

総 而御聞届ケ物御紙 面調相止願書江附紙ニ而

御沙汰之事

而御県内一手二御庁所江御引受郡町 『無差別

板 但 |御庁所三之丸江御構建具敷場等御売払何れ茂 間江腰懸ケヲ調 エ 前 = 机様ナル \$ 0 御構 ヹ郡

4

田村川付替入用拝

借凡八百貫目年賦払ニも

可相

成

市役人モ腰懸ケニかム里逢対相成候事

一旧革田共氏神平民同様村氏神江取繕ひ候事ニ割庄屋辛未十二月廿日苦之処当度丸テ御捨テ被下候事

沢原繁太郎郡用所ニ おゐて与頭五兵衛 ^ 御 示談相 成

一八十八歳百歳已上之者共同月 御扶持相止為祱寿金五

両

百歳へ拾両被下候事

一座頭盲女官職御同月 ル 酉年ゟ居扶持御差止被仰出 ·廃止座法相止割庄屋引受ニ被仰 候二付銘 々其覚悟可致 付 来

との御触

一惣而神社現境内御□□立物雨落ゟ弐間通り除之外境同月

一戸籍御しつらへ男女年齢取分十四已下十五已上廿同月の外よ唱木竹伐置□□□被仰出寺院右同様之事

已上四十已上六十已上八十已上人別員数ヲ夫ミ書別

候事是ハ惣メ人員之事

壬申正月廿五日諸郡一 庄屋社倉十人組頭取与頭長百姓惣而役名之者 同割庄屋社倉頭取社倉支配役

切被

差免幷二永代生涯目見役格之者一切被廃

同廿七日第十一字御用召礼服着県庁江罷出 同 日参庁広島幷沼田安芸三郡元三ノ丸於大広間左之 候様 申

参

通リ被仰付

安芸郡戸長

庄山 中野村 野間清右衛門 沢原繁太郎

H 村

中 村 難波善右衛門

府

戸 尸長副

野 村 三戸八右 衛門

H

村 しま 清水理兵衛 山本伝左衛門

牛田 倉橋

596

少長副	熊野村五人	壱人ツ、	村々高弐百石壱人位尤小村ハ	少長	宮原村 青盛□之助	船越 竹内彦五郎	中山村 石井孫三	庄山田村 宮原次郎四郎△	同 永山龍三郎	蒲刈 山中万三郎	坂村 児玉小右衛門	海田市 千葉修次郎	熊野村 佐々木健太郎	苗代村 進藤平三郎	矢野村 小池新兵衛	瀬戸島 今田官右衛門	警固屋村 石田幸三郎
一社寺現境之外地所御売下ヶ相成候ニ付相当値段付図	壬申二月 広島県庁	已上	非役士族 卒 社寺 平民	戸長 同副 少長 同副	県庁附属	同 三等 同 四等	等外出仕 壱等 同 二等	一等外已下座順向後左之通リ相改候事	官員トス	一管員一等分十五等迄ニ被差達等外四等幷仕丁已上の	一刑律係号替聴訴課	一民事御役所替号庶務課	司二! 一亮之助少長副被申付	同二月十二日 外郡々略ス郡本御出張被仰渡候由	熊野村廿三人	付	二月廿七日 村々五十家ヲ以壱人見込被仰

面 江 相 添 可差出旨 一被仰 付

旧 藩ゟ郡市之者へ 扶助被下米等之義被廃候二 付而

家主扶稼之者も被下米ハ当申年ゟ被廃候趣被仰

出

親子兄弟同居之者 へ士族卒共御扶持米被廃候趣 被仰

 $-\Xi$ 諸郡 郡 江 |区長壱人ツ、 副戸長壱両人ツ、士族卒之内よ

—四 以月 b 御 差 向 相 成

後参事通行たりとも先案内差出不及旨山口権

*→Ŧ*i. 当壬申年ゟ毛上免ニ被仰一月

お御差図有之事

但し五公五民升ハ弐割引之事

一五. 田月 付度毎可願出若村役人手元ニ而帖切等取計 畑帖切証文入質とも県庁ニおゐて御取 扱ニ 候得 相 成 者 候

タマ

ラフラ置庶務取扱又元郡用御役所出張所御

代官勤

五月十日区長国枝与助殿 右 地代金半方贖蔵金被仰渡候事御 戸長同道祝ニ 触 出 一罷出 軽 3

候 処 同 御 返 看御馳走御取持芸子数人等罷出祝物金拾

両ツ、

持参

直

々奉書被相

渡候

酒

此般区長へ元旧藩ニ而郡奉行ニ準ス戸長 ハ郡廻リ戸

> +: 族之内十三等

長

副

御代官ニ

準し

候との義区長

ヨリ咄有

之区長

/>

一前年午極月末限リ船越村郡用所引払奥海田同年 蔵宅当分借受区用 所ニ致置 、処壬申 正 月 1 七日 村三 1広島 浦

L 者御用ニ付前文相 県庁へ割庄屋社倉支配役村々庄屋社倉十人組頭等之 候 割庄 屋始 ルメ旧藩 記シ候通リ役名御改定従前前 お申 一付相 成居候分不残御 廃 止之 = 記

事

少属

31 所ヲ廃止第三大区用所ト相改リ 続 浦 万蔵方ニ 而諸 務 声 長 同 朱印 副取 計 戸 籍 取 調 郡 用

相

用

ひ候同

六月

受役所厳重御構出勤役員 沢原繁太郎改而戸 長二被命其後 司 洋 服ヲ着 海 田 市 2 加 1 藤 ス 沢 = 掛 方 借 1)

ヲ待同七月廿二日左之通リ副戸長被命於県庁大参事 番之屋敷也是ヲ借受大区用 所ニ 取 調 立 派成 事 不言を

苗代 坂

神藤徳孝

児玉道信

倉橋

Ш 本 温

蔵

石 原幸三 郎

中 Ш クマ 警固屋

佐

一々木高

石井重

右之外小区用係数名被命尤当村ニテ壱人又ハー村二

区長月給拾八両 人一村一人区々也人名略ス 也

戸長月給拾五 両也

副戸長月給拾弐両 " 也

小区用係一ヶ年給十五両也

右一応県庁御取替を以御渡し相成後ニ区割ヲ以入

候事

但 七步 高割

三步

戸 割

八月廿六日加藤沢宅ヲ去船越村区用所出来ニ付引移

る同夜酌女三人招キ大酒宴也

県内社寺幷新民宅地為検査栗原権少属高原□等外四元月 庶務取扱方元代官所之通

等也佐々木高仙副戸長也外二用係両 人巡回社寺境内

第四章 近・現代の資料

ヲ定ム幷浅野家墓所ヲ始メ墓地ヲ定ム

十月ゟ諸民諸願届等権令殿直当県庁へ当人直出

し始

る

戸籍帖皆出来ニ付出庁戸長副戸長連印ヲ以太政官

同類帖相整県庁へ納ル此筆子士族卒四者之記ヲ雇入・一月 差出一区ツ、箱入也

ル

新曆法被仰出太陽曆ニ御改正十二月三日ヲ以明治六

年一月一 日と被命正月式此日取行候事

一月四日諸大区之長幷区用所被廃候事

但是迄之事務戸長宅ニテ取扱戸籍 ハ県庁ニテ取

扱候事

村々惣代法組合法被仰出惣代ハ村中入札多札之分へ

戸長月給相止年給百五拾円副戸長百弐拾円用係三拾

申

一付候事

円ニ相改候事

但

|旅費日当ハ別段

諸税金上納方当人々より県庁直上納之事被仰出

諸職工何々迄も鑑札願受税金上納被相改候事

貢米正納代納勝手可 為事

妓女御廃止勤奉公人勝手二帰住之事

但当人望之者、親類当人連名願出戸長加印之事

諸 願達出惣代連印之事被仰出

但願届書代筆いたし候得者御定メ通リ代價受取

可申事

候分裁判出し被仰出候事

貸借取引筋たとへ年々不怠催促有之候とも五ケ年過

嚴島作地禁制之場所ニ候処開墾被仰出候事 右裁判二通り有之候分ハ一切取揚無之候事被仰出

村 々社人平民職業二 相改リ候事

但区長ゟ宮守申付候事神官ハ別段御人撰を以被

仰付候事二付従前抱候名義被廃止候事

候事

僧尼借家住居勝手たるへき事

僧尼たくはつ禁制被仰出并社寺配札不相成候事

八卦占人相家相并日ノ善悪ヲ言事 山伏御廃止 一切御廃止之事

諸宗ニ妻子勝手たるへき事

僧侶法談勝手二不相成説教方被相定候事

但肉喰勝手たるへく事

社々湯立被廃候事

邏卒召抱相成候事

紙楮改役諸品運上役十步役等之名義被廃止候事

人雇賃銭定ヲ廃止シテ惣而相対を以過当無之受取候 但商事勝手たるへく也

事

郡村役人従前給米并定出飯米且筆者等一切被廃至当 之賃米御定メ通遠近里程ニ応し取計且弐人ロヲ壱人

弁利次第何方ニ而成とも居住被差許其村住人ニ可仕 シテ勤メ候得者弐人分受取不苦候事

地券御発行之事

但送入籍願出戸長副戸長送リ書持参之事

但 地 価 御改

爾後地宅共入質之節ハ戸長副戸長奥印無之分取扱申

医師同 漢学御廃止洋学入門之事 断且検査相 成候

神祭御起立之事

堂宇御調へ之事

教義御習行之事

村々山 目明之者按摩不相成事 々高頂御調之事

年忌営行改革之事

広島城建物近々解払相

成 候事

旧藩貸付有之候種之米無利十 ケ年賦返上相 成候事 声

長副戸長連印証文差出置候

貢米之内□米上納不及候事

此分御取立相止。其儘被下候事

忠孝貞実之事被仰出 候二付堅可相守事

藩札御引換被下候事

社寺上地御売下ケ被下候事

同五両札已下朱二

而

何銭ト

書入当分通用被仰出候事

第四章 近・現代の資料

一学校開行当村西光寺小学校官許同年五月、、
一男子二十歳満之者徴兵之法方被仰出明治六年

五月五日東京禁裏御所不残焼失幷大政官焼失

同八日上方大雷大雨之由

同廿三日氷ふる大サ将棊 ノ駒ノ如シ当所より強雨大

雷津江村農家雷火焼失作牛亡由熊野村ハ氷不降

明治六年八月ヲ限国々ニテ大小名 |札通用廃止円札銭札等を以定メノ通御引換被下候 \exists IJ 通 用 2 来リ候

事

一医師自宅ニテ治療差止八月 メ私社ヲ設立シテ会合 ジ事

大旱魃二付所々社 モ有之植付候共田草取之業不相 々ニテ雨乞不□田方植付不相成分 成 其儘枯苗等多分所

々山 々へ松明ヲ灯シ 雨ヲ祈ル

十七大区ニテ戸長壱人士族野村九郎ニ被命諸 大区

戸長ハ其下タタルヘシ

一散髪ノ者少シ緩ヤカニテ半髪髷ヲ結イ候モ八月

来ル 盆躍八月七日ヲ以七郷村々執行尤外村々七月十五日

ノ追々出

II 資 料 編

Æ アリ九 月ニモアリ区 一ナリ

一八 海月 田 大川 付替古新 開 ノ中 お海 通 ス弁新 開築添相

候事

一七 諸月 一野村九郎総区長八月世二日 Ŧ 不人気サ ヌキ 企動 1 事

= 被 命

沢原為綱三大区 々長被命 事 務従前割庄屋之事

森 本修造副区長被

但

二大区

一年一名宛

但 右同 断

佐 4 、木高仙 地 参係 附 属 被

但 石同 断

是迄之区々戸 長同 副 并 用 係之名称被廃 候

村石 ヘ戸 長被

神藤 徳孝佐々 木祐四郎青山次征各村 略 ス

事 務従前 庄 屋之通

船越村元区 県庁国泰寺ヲ以取計諸課此 用 所当 一時学校之内区 内 = 長等会議所 而 兀 課 ラ分ツ 成

百

村

沖新開

開

拓鴻治新開ト改

メナ

月廿九日

1潮止

x

旧革田

1 称シ

毎年正月元朝不残直垂様成者着シ舞靍

ル

—同

成

地券御改正ニ付高仙義村々巡廻月番に一月廿一日始メ十二月十二日迄郡内村々加勢アリ

ス

区長壱人月給中十三円副区長十円 地 浦郡

割

地 券係 旅費十里詰 附属月給 八円御金渡 円廿五 一銭ツ、

出 広区内区 留 日 三十

銭ツ 巡 廻

御 金渡 Ŧi.

里

詰

七

拾

銭

戸長壱人月給四 闩

但 Ŀ 六円中 Ė. 円 郡 割之事

済酒肴伎女宴行出帰人力車

合議之節ハ令参事課長局中幷区長地券係

会席御

用

但

広島 城 一会席 始 ルメ諸 玉 IΗ 藩上ミ 城 々門不残解払元屋敷邸町家商 屋敷之事 店

成 ル

明治 七年一 月新聞紙ニ日百 石已下士 一族俸還 1 ・タシ五

氏神八幡宮間殿建立佐た月ヨリ十一月迄替出来ケ年禄明治七年半方被 下 X 木亮之助 帰農候様 願 1 丰 事

已上之者

申

ノ衣青色也罷出来リ□居リ封銀等遣 L 候処右 平民籍

江偏入已来相止メ不罷出候

但平民籍江偏入被下候二付帖面 其通リ ナ 1

モ従来平民交リ不致尤他所ニ

テ

同樣取扱候儀

明治七年役員改称

区長二等ニ分ル 上等月給十四

闩 下等月給十二 円

但一大区引受之事

副区長同

一等同 + 円 下等同

但 ī 区長ニ附属ス

戸長同

上等同七円 下等同 六円

但一小区引受之事

元戸長ヲ副戸長ニ任

上等同 五円 下等 同

但一 村引受之事

第四章 近・現代の資料

一佐々木髙仙上等戸長拝命大区引受同年三月十九日一サカケンセイトウアリ同年三月十九日一タイワンセイトウアリータイワンセイトウノサタアリ同年五月

但準等外三等月給七円被下

厳島神社御神祭七月 三月五月節句雛幟 相 世日御執行則 止

旧曆六月十

七日

盆会八月廿六日執行旧 慣之通 IJ 則 旧 暦 七 月 + Ŧi. 日 =

但

|官ニテハ出行無之下方慣ニ

做シ候迄

八幡大躍 も同様執行ス

八月廿二日大風雨諸木転ス家居宅船等損亡山

崩

亡人県内ニテ数人

但熊野七郷ニテハ焼山村ニ壱人婦女死ス倒家拾

五六軒熊野村ニも有其外村々右ニ準ス

一米石ニ付六円三十銭ゟ六円八十銭位迄八月

一亮之輔副戸長拝命九月十五日

但準等外五等月給四円被下

一百 一タイワン御行一氏神祭旧暦1 曆日並執行御 征 戦 爾 後 シ 神幸 ナ 玉 1 和 1) 議 Ŧ. 百 ヲ交ス大

久保大臣

一明 一高仙地租改正総代拝念明治八年八月廿二日一亮之輔準等外四等月俸 命月 俸五 俸 円 八円 ヲ給 ヲ 給 ラ官費

外二 巡廻旅費定則之通官費ヲ以仕給

地

和

改

Í

=

付実地田

畑宅地反別丈量各村竿入方伝習

一右実地ニ坪検査様九年六月ヨリ 但竿ハ六尺竿ニ改正寸歩も無違漏注意取揮之事 歩 巡廻

矢賀村ヲ以県内模範トシ各区 協議決定且 令参事地租 組合村 改正事 務 K 議 局七等出 長議 員 集合之事 仕 々長改正総代招 一桜井其 外係 集二 出張 テ

各村地等組 立之事

明 治 + 年八月ニシ テ終ル

此組立法達書有之亮之輔議長也

亮之輔準等外三 亮之輔御国内勧業事 拝 務二 命 月俸 一付区内 天 円 ブッ物 品 取

揮係

ij

= 付

> 七月十六日広島 ョリ出船東京同八月 一日

但 此 御 用 便 西 京 両本 原寺 并 伊 勢両宮其 八外名 所

巡

薩摩

西郷某軍

事

征

戦数

月

=

海

Ŀ

一郎長男悦太郎

東京巡査 ヲ以朝廷背キ

=

候条十.

-年六月

薩 及

摩 フ

戦 彦

一大風大木ヲ転ュ同八月廿六日

前 年大旱損無毛上 る人屋 一県内夥 革 元ヲ 落 敷 事

ス

多事

済 此 = 年 付 \exists 间 IJ 米納 税 ガラ目途 更ニ 被廃金 1 シ見込上 納 = 成 納 ル 事 尤改 年三 正 ケ 地 度 価 割 取 揮マ -

成

一同一同

松扱所

被

廃候

蒲 刈江 田合七 ケ所 へ第一 事 務所 ゟ第七事務所迄ニ 田 矢賀宮原倉橋

数村事 務所 Ξ テ取 极之事

村

大

用

掛被差置

候

ヲ 矢野事 平谷 務 Ш 所 角苗 = 而取 代栃原焼 极相成候事戸長広島住人金子礒 山押込. 矢野 坂 大屋 7 + ケ

之助 副戸長当村佐 女 、木祐四 1郎筆生 同 所二被差置矢野

一佐々木亮之輔御用済東京より帰着十二月廿四日 但シ事務所ハ矢野村宇都宮伊兵衛宅当分

右同人第三大区会議所詰書記拝命月俸六円也

右同人投票多数二寄熊野村人民惣代及五小区総代

但此総代人ハ郡村諸入費ヲ担任区長用掛示し合

西光寺本堂継建幷総瓦葺ニ成ル地築稀成脈・一年 取 収扱候議務也

六月区費取立区長庄山田村沢原為綱ゟ各人民へ入役一年 蔵外弐人旧暦九月丗日上 此 担当惣督村中依頼佐々木亮之輔大工棟梁林文 一棟尤屋根葺迄相済候也

割戸別配達之事右佐 々木高仙取立上納済此人用掛三

ケ村兼年俸三十円

同 年風 雨順時諸作無滞秋祭別而 賑 ~ 敷事 也

同年十一 同 年七 月廿二日付大政官 月一日各区々長始メ惣而役員不残被廃候事 お郡区 改 Í 御布達 相 成 ル

第四章 近・現代の資料 庄山

田

.村沢原為綱元区長安芸郡長被任

一大小区名称被廃候事

一元正副戸長之内左之通リ安芸郡役所書記拝四月五日

命

府中村 西尾生

広島住 江川久之助

熊野村 佐々木祐四郎 金子礒之助

和庄村 佐々木高菊

蒲刈島 永山

七事

務所

々敷事

世

倉橋島

尾曽越正 邦

六事務所

事

安芸郡書記

当分旧事務

所

而

メ九名但戸長兼務

江田

島

久枝才十

広島寺川二ノ京 庄山 田 村 7豊田

坂村児玉

苗代村

神

藤

村豊

島

中山 村石 井 牛田村石井 其外

広島赴任

仁保島 森沢彰

務所

奥 弐海 事田 務所

三事 務所

宮 五原 事村 務所

務所

一光教坊住 職 和 田 春 西 本 願寺内陣 成 ル

一旧高ヲ廃し田畑宅地同九月八日始メー村々ヘ戸長被差置婦 長被差置候事二 地改 正 反別 成ル人民投票多数 地等 収穫米ヲ以 二御 地 達 租 取 ĩ

立二人民惣代協議之上着手十 月廿二日落着佐 K 木高

一呉地学校設立寄附金拾円以十月 仙宅ニテ同人主務取扱候事

Ŀ

隼

由 I順之助

隼

田

孫

平隼

田

松之助藤井口へ

右之外数人数御賞挙書右木盃給リ 同学校 -ヲ Ł テ 佐 × 木 高 仙 I

一有馬道周四十月 们 十 壱 年 十 一 医学校寄附 + 南 = 依 IJ 木 盃 IJ

り人別

へ相達ス

四 月 H 辞 職 ス

明治

月十二日

亮之輔安芸郡書記拝

命同

年

明

治

廿二年

市

町

村

制

実施

世

良保郎

次村

長

1

ナ

ル

百 百年八月 五日 Ŧi. 1 区 六熊 ケノ村外 惣代人当選ス弁 = 熊 野 村

明治十二年 惣代人当撰 月 # 29 日 官等十 七等安芸郡 書記

拝

命

郡

役所詰 亮之輔熊野村 声 長兼務被申 付

> 亮之輔 同 年本村人民投票多数 八 八月七日 安芸郡 = 書 而熊野村戸長 記 ヲ 辞 退 ス

治十 六年戸長年 期 満 限 再 撰ニ 拠テ又当選ス 1 ナ ル

明

此 年月間 ニ賞与数四 明治十八年二月五

日当

村

戸長

拝

命

明治 + 四年光教坊本門 再 建 惣 理 担 ス

明治廿一 年五月廿八日判任官 五等ニ 置 力 12

明治 明治廿二年四月亮之輔安芸郡徵兵参事 廿二年二 月 日 本帝 \pm 憲法発布 七 ラ 負 = 当

明治拾九年春学校建設 亮明治廿四年五 月廿一 日県会議員 ス新宮時数川 当 付 替 選 ル 出 来庭

大

放峠堀 下 ル 右 1 凶饉 ニシテ貧民ヲ使役 シ 挙両

同 廿六年満 期 シ テ中 井堰村長 1 ナ 12

明 助 沿三十 役 1 ナ 年五月 ル 亮当村村長当選ス同 時 = 隼 田 孝 四四 郎

是 徳則又転し Ξ 1) 先 丰 県知事 明治三十 鍋 一年夏岩村高俊知事 島 幹転任 シ 折 田 立 內又転 1 ナ ル 浅 H

郡長沢原為綱 非 職 1 ナ IJ 杉山 新 十郎六七年在 勤 =

而

長トナル

劇の就中当村ハ非常 明治三十一年夏稲虫 ノ惨状ニシテ米作平年四 (浮塵子) 発生 国内至ル 処虫害 步 五厘

作翌年春ハ一大節倹ヲ行ヒ細民頗ル困難ス米相場最

明治廿七八年清国ト交戦本国ノ大勝利トナリ台湾国 ヲ割譲シ 高 ノ時ハ石ニ付金拾八円夏十二円五 猶分取 A ル軍艦数隻其他諸 十銭 種 ノ物品 トナ ナリ

当村ヨリ ノ大腿ヲ損シ廃疾トナリ恩金終身頂戴ス又海軍一 渡清シタル兵士ノ内溝 口 [吉松 陸戦ニテ足 쑠

水兵藤井孫三ハ左右

「 ノ 手

ノ上腕

ヲ

砲損

シ篤疾ト

ナ

1)

却

終身恩給一ヶ年ニ付金六十五円ト 時金数百円 ヲ 頂

戴セリ其他人夫ニシテ病死セ シ モ ノマ テニ 至リ恩賜

アリ

営 ト定メ啓行セ ラ

明治二十七八年清国交戦ニ付天皇陛下ハ広島ヲ大本

明治参拾壱年帝国議会解散ヲ令セラル テ緊急勅令ヲ以テ選挙取締厳 同 年更ニ

重

一励行

コセラル

ス而

第四章 近・現代の資料

> 今年本莊村大字苗 代栃原 赤痢 病流 行シ苗の

> > X

於て患者五六十名ニ至

今年諸国大豊作我カ村内ニ 稀ナル豊年ニシテ米麦著其他作物登熟し村民喜悦ス ハ些少ノ害虫アル

モ近年

又流行病ハー人モナシ

明治三十一年十一月亮村長辞職 議員等要任ヲ促し届書ヲ返却セリ又々十二月十三日 届出 IJ 役場員及村

留任ヲ助役等 日村会開会中ニシテ村会議員ハ左ノ委員ヲ撰抜 辞表ヲ届出 セリ明治三十二年三月七日弥以テ辞表ヲ ルニ年末事 3 リ当家二就キ勧告セリ又々辞表ヲ返 務輻輳スル等ノ故ヲ以テ強テ 届 出 ル 其 強

テ留任ヲ勧告セ 1)

村会議員

委員 世良雄 三郎

井上真一 郎

結城守兵衛

井上友太郎

役場書記

世 良実三

郎

而テ亮ハ徹頭徹尾留任セスト申反シケレ ハ右委員

竟~~ 辞ス 一応会場ニ帰リ夕刻再勧告ニ来リタレ氏断然謝絶シ

セ 1)

故ニ明治三十年五月就職シ殆ト壱ヶ年十カ月間勤務

明治三十七年八年両年ニ跨日本ト魯シャノ交戦 にアリ

古今未曽有之大戦争ニシテ竟ニ我カ日本連戦連勝セ

1)

明治四十年ニ当ル 水ス村内初神新宮 夏七月十五日午前ヨリ猛雨ニテ洪 最モ甚シ出来庭呉地之レニ亜ク

損害多大ナリ

八月上旬ノ調査上堤防道路橋梁落ツ 雨池ノ補口

総テ金七千四百円 ノ見込ヲ立

自費支弁ノケ所田畠被害未聞ノ災害ナリキ猶同月内

明治四十年夏朝鮮事変アリ伊藤博文統監トナリ万事 暴風アリ損所多し又雷雨アリ損害多大ナリ

関渉之任ニ当ル内乱ニテ日本将校以下十七名戦死ス

物価

米上米壱石拾七円八十銭

麦六円五十銭

大豆九円

豆腐一丁二銭

鰮干鰯十メ目五 円四十二

注 分は省略したがその箇所を注記しない。 ある。そのうち佐々木家の私的な家庭事情にかかわる部 近世資料所掲の「永代日記帳」の近代に属する部分で

[2] 村 会 規

則

佐々木忠夫氏蔵「戸長提携」所収 (明治十三)

申 明治十三年七月八日十戸組合委員招集西光寺ニ於て 値候代議士ヲシテ規則編纂セシメ七月十七日附

以進達シ其後度と御推向在テ竟ニ本年 (十四年)御裁

熊野村村会議規則 第 章 総則

定

608

第 条 村会ハ通常会ト臨時会トノ二類ニ分ツテ定期

_ 於テスル 者ヲ通常会トシ臨時 ニ開クモ ノヲ 臨時会

1 ・ナス

第二条 総テ会議 ノ議案ハ戸長ヨリ之ヲ発ス

第四 第三条 (条) 村会ノ議決ハ戸長ヲ経テ郡長ニ報告スベ 通常会期中議員 ノ内村内公共 ノ利 害ニ関 ス

1

議ニ付シ可決シ タ ル 時ハ議長ノ名ヲ以建議スルヿヲ

得

ル

事件二付県会二建議

セ ント

スル

者 7 ル

圧

ハ之ヲ会

第五 事件ニ付意見ヲ問フヿアルルハ之ヲ議 (条) 村会ハ県会又ハ郡長ヨリ村内ニ施行スベ

第六 (条) 諸事 細則 ハ会議ニ於テ之レヲ議定シ戸長

認可ヲ受施行スヘシ

第二章 撰挙

第七条 村会議員ノ数ハ十人ヲ以テ定員トス

第八条 議長副議長ハ議員中ヨリ公撰シテ戸長ニ報告

ス

第九条 書記 ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理 セ シ

4

日之ヲ戸長ニ出スヘシ

第四章 近・現代の資料

> 第十条 男子ニ シテ村内本籍住 村会ノ議員タルヲ得ヘキ者ハ満二十 居ヲ定テ村内ニ於テ土地ヲ有 -年以上

スル者ニ限ル

第一款 但シ左之各款 官吏戸長筆生傭使并二 三掲 7 ル モ ノハ 教導職 議 買タル ٦ ヲ

得

ス

第二款 風癲白痴ノモ

第三款 徴役一 年以上実決 ノ刑ニ処セ ラレ

シ

七

第四款 身代限ノ処分ヲ受負債 ノ償ヲ終 -1)-ル 王 1

地ヲ所有シ村内ニ本籍住居ヲ定ル者 = 限 ル

丰

第十一条

議員ヲ撰挙スルヲ得

ヘキ

者

村

内

=

於テ土

挙人タルヿヲ得 ス

但シ前条ノ第二款第三

一款第四款二

触ルル

モ

1

撰

第十二条 議員ヲ撰挙セントスルヰハ戸長ハ十日以前

開 クヿヲ得ス

撰挙会ヲ開

クコ

1

ヲ公告シ戸長役場ニ於テ撰挙会ヲ

第十三条 己ノ住所姓名及 投票ハ戸長ョリ付与シ ヒ被撰挙人ノ住所姓名ヲ記 タル用帋ニ 撰 シ預定ノ 、挙人自

編

但投票ハ代人ニ 托シ差 田 スモ妨ケナシ

第十四条 モ多数ノ者ヲ以テ当撰人ト 投票ハ撰挙人面前ニ於テ戸長之ヲ披閲シ最 2 同数ノ者ハ年長ヲ取

同 年 ノ者ハ鬮ヲ以定ム

第十五条 当票ノ当否ヲ査シ又披撰挙人名簿ニ就テ当撰 ヲ査シ若シ不適当ナル者アルカ或ハ当撰人自ラ其撰 投票披閲終ルノ後戸長ハ撰挙人名簿ニ就テ ノ当否

第十六条 辞ス ル 当撰人ノ当否ヲ査定スル 片 ハ順次多数ノ者ヲ取 ノ後チ戸長ハ其当

撰人ヲ役場ニ シ但シ当撰人請書ヲ出シタル後戸長ハ其姓名ヲ村 呼出シ当撰状ヲ渡シ当撰 人請書ヲ出ス

内へ公告スヘシ

第十七条 ス 議員任期 ハ弐年トシー 年毎ニ全数ノ半ヲ改

但 第 年期ヲ改撰為スハ抽籤ヲ以テ其退任者

ヲ定ム

第十八条 議長副議長ハ議員ノ改撰毎ニ之レヲ公撰ス

1

第三章 議則

第十九条 議員半数已上出席セサレハ当日ノ会議ヲ開

クヿヲ得ス

第二十条 会議ハ過半数ニ依テ決ス否可同数

ナル

片

第二十 議長ノ可否スル所ニ 条 戸 長若クハ其代理人ハ会議 依 ル

旨趣ヲ弁明スルヿヲ得ルト食圧決議ノ数ニ入ルヿヲ

ニ於テ議

得ス

第二十二条 会議ハ傍聴ヲ許ス

第二十三条 議員ハ会議ニ当リ充分討論 ノ権ヲ有

ころ但

第十四条 シ其人身上ニ付テ褒貶毀誉ニ捗ルーヲ 議場ヲ整理スルハ議長 ノ職掌トス、 得 ス 若シ規

則ニ背キ議長之ヲ製止シテ 其命 順 1 +}-ル 者 アル 片

ル 者ハ警察官 ノ処分ヲ乞フモ ŀ ス

議長ハ之レヲ議場外ニ退去セ

シ

4

ル

ヲ

得其暴挙

第 四章 開閉

第廿五条 閉ハ戸長ヨリ之レヲ命シ会期ハ五日以内ト 村会ハ毎年十一月ノ一度ニ之レヲ開ク其開 ス

得死 直チニ 其事 由 ラ郡 長ニ 報告ス

第廿六条 臨時会ヲ開クヿヲ得ス但シ戸長ハ議会ヲ要スル事 通常会期 ノ外会議ニ付スヘキ事件アル片 由

第廿七条 他 臨時会ハ特ニ会議ヲ要スル事件ノミヲ議ス 得

ヲ直

三郡

長

ニ報告ス

ノ事ヲ議 ス ル ヲ

終

参考

議員ヲ十人トシ ・壱名ツ、設置 新宮原城ノ堀 ノ義十四年五月九日付ヲ以規則更正 ノ三組ハ弐名ツ、余ハ組

ヲ乞同五月廿一 日 付ヲ以御 裁定

議事細則ハ会議ニ於テ之レヲ議定云こハ十四年七月 二日付ヲ 以迫加 ヲ乞同月十八日御裁定ニ ナ ル

右両件

1

モ

本則

組入候也

第四章

近・現代の資料

[3] 建 白 書

熊野町役場文書

(明治十七)

茲ニ小吏等誠恐々々謹テ

シ回キノ余蘊乞フ其辞ヲ略シ其意採 広島県令千田貞暁殿下ニ白ス小吏等韮才未タ礼法 7 故ニ 辞不敬ニ渉ラサ ル ハ必ス能ハス然レ セ **ハ** 幸甚抑 1 モ マ唇 誠感默 三暗

Ŧ

体ノ大政額 今上天皇陛下ハ夙ニ下意上達ノ言路ヲ開キ玉上 五個条ノ玉誓ヲ以テ明 示 セ ラレ 政事ノ改 君民一

令其他枚挙ニ違アラス是レ皆富国強 良駸々乎トシテ日ニ進ミ月ニ開 ケ地租改正法或ハ徴兵 宾ノ 基 3 リ外 ナラ

レ人民経済ノ大要使民トハ春耕秋耨 ズ此大基ハ則節用使民ニ在リ節用ト 1 時 則チ計入為出是 ラ奪 ハス是

治国 ラス国富テ兵ノ強カラサ ノ大要未タ有ラス用 ル ヲ節シ国 ハ未タ有ラス然ルヲ兵弱 ファ富 7 ++ ル 未タ有

国貧ナレハ必ス東敗南辱ノ恥有リ故ニ民ハ君ヲ俟チ君

民ヲ俟民 玉 ノ本也 此ヲ以

天皇陛下ハ深ク有衆ヲ愛憐シ玉ヒ億兆其仁沢ニ沐浴ス

611

衰況 膏血ナリ 米価下落ト H スハ古今不易 ヲ現 言 フ ヲ 七 = IJ 俟 起因 タズ 其 徴憑タル諸税或ハ公費之多額 ノ物膏血 ノ通 ス 然 ル ル ヲ今ヤ 義 ナラン乎然レ ナレ 我 1 ,成ラサ 力郡 七 1 粒 内 Ŧ 粟 人民 実況 八皆民 3 及 IJ ル ナ 然レ 人 租 il 大 税 1 -

比較スル左 則計 入為出 如 最モ要ス故 ニ今収穫額 1 弁 出 額 1 ヲ 詳 悉

而テ天下

3

1)

ルモ

ノナシ

属 ナ F 監察ヲ下シ汲 是計入為出ノ要ヲ精算セサ 任 IJ 以テ在庭君子ノ万分一ヲ 七 モ 金弐百弐拾七万千六百四 金百弐拾四万千九百〇四円〇八銭 ロキ ラ セ 節 ラ 1 用 ・処ナリ v + ル 1 事 断 端ナラント察ス閣下果シ 々トシテ其任 ラ ヲ公議ニ決シ以テ小吏等寸忠ヲ鳥 左ノ歎願 伏テ 歎願 口拾円拾 裨補 条件々実ニ ル ス速カ ノノ挙 過ナリ故ニ小吏等之レ ラサ 七 -1 四 明 ŀ 銭 ル 八 ンテ君民 大海 欲セ 武弐厘 断 厘 ヲ 憂ヒ百方焦思 ヲ 賜 収益額 ノ 一 黙 弁出 体 粟ト 々愉安 政額 負荊 有 額 雖 力 =

頓首

囚費

ハ果シテ

誰

 \exists

IJ

生ス

ル

カ是レ皆地方費

IJ

出

ル

者

第 条 減租之件

漸 T 却 ラ 価 П 農人困窮之秋ナレ -1)-顧 ク物品等 セ ラ百 1)-ル ス ラン 分 = V \exists t 1) 明治 = 税目 然ルニ 先 モ 相定 ツ云 六年地租改正条例第 相 改 ムへ ハ幾分 備 々 租 12 1 丰 1 Ŀ 明 ノ減租 納以降既 示 ノ処未タ物品 雖 セ 1 ラレ モ 未 ヲ 冀望 これ年 六章 夕減租 A ル 中 等 人民 地 ノ令ナク今 星霜 諸 租 誰 税 ラ経 則 カ 目 忘 興 地

第二条 監獄費 減少之方法

審 非ス治罪法第五十二条同六十二条 テ -É = 刑ニ確定スル ハ治罪上 未決 +15" 理 因 曲 罪 ル 悪ヲ ス V ヲ停止シ 在監 至 ル 1 涇滅 罪科徴々ト 1 徳 延 · 滞 大原則 法 在 セ 7 弊 監 律 年或ハ二年ノ星霜ヲ経過ス 1 テハ無罪 ヲ命 ナ 7 ŀ IJ 防 シテ既決在 タリト 企 節 牛 ツ ス ル 用 故 純白ヲ以テ被告人ヲ 且ツ被告人ヲ永ク 使民 処ナリ然レ = 雖 法律· E 監 人 治 ノ精神 ハ ー Ŀ 人其審理ヲ 実 玉 月或 1 = ノ大要今ヤ 止 モ 未決 訴 ル 二 聞 ヲ 訟事 者 視 得 弁 待 監 月 ナ ス ズ 七 未決 之カ ス恒 = 件 丰 = ル ル 苦 シ 処

ナレ

1

在監人ノ多キ

/\ 則

パチ経済

ノ計入為出

=

関

渉

ス

湮滅ヲ 法 = ノ労費弁出 7 畳 停止 反テ い可 遺感ニ 七 ル = 啻 ス ナ 裁判審理 防 ナラ 法警察官或ハ戸長ニ之カ監督ヲ命シ以テ罪憑ノ 1 丰 セ 是レ ラ 堪 5 = ス 非 ル 1 ヘス況 囚人反テ其徳政ニ ルニ 此 T 1 是レ 一一一 困 丰 ノ要結ヲ得 難 於ヲヤ古人云アリ人ヲ /\ ヤ□費タルーケ 在家ノ父母妻子春耕秋耨 被告人未決監ニー 人ノ為 未決在監 而シテ残ル メニ 信服 其 ノ永キ 年 困 難父母妻子 1 1 自 年或一 = 額七万二千 父母妻子モ 罪ス 起因 カ ラ感覚ヲ起 年 ル 1 ス故ニ方 奴 時 = ノ自 春耕 - 余円 及っ ラ過 7 テ 曲

秋耨 憂ヲ受ケズ 而テ費用 減少 勘 カ ラ ス 及

第三 条 県会議員減員之件

県会議員ハ本県内ノ盛衰浮沈ヲ議シ人民ノ惣代理 自治 其 人ニ 精神ヲ 一逢ヒ相 発揚 語 ス V 1 ル 法理 者 ナレ ノ要点モ 其任 知ラス 重且 ッ大ナリ 、徳義 ノ区 人人民 然

ル X + + = 1 E 非 ス 是 V 千 羊 1 皮 1 狐 1 腋 = 若 カ

人多キ

ヲ

以テ

事業

举

ル

セ

第

四章

近・現代の資料

況世

事

情

況

モ

知

IJ

得

ス

唯

席

=

列シ

黙

K

日

字

ラ

経

過

ス

ス

ラハ 伏テ目今ノ情況ヲ洞察スルニ今 ヲ見 計 豪商家等 出ス其原因ヲ捜索ス 前 人民途炭 負債ト他稼ノ者 画 実ニ土 条 V ス ル = 書 我 = へ土地家屋ヲ書入借 /> 一地家屋 陥ラ 論 載 カ ヲ ス 小 俟 1 ル外総テ官衙ヲ合併シ タサ 郡 4 1 ノ本 多分他 ル ル 五郡 人口ノ百分 = 於テ殆ント ルナリ彼 1 小吏等信シテ疑 是他ナシ 郡 入 区豪商家等 3 及 ノ収入ト弁出 IJ 僅 明治九年以降他 百万余円 ル Ŧi. 力 金額実ニ 其 ノ浮儲 ケ グラ容レ 年間 他費用 所 ノ大差 有 驚 ヲ 1 1 -1)-経 ノ比 節 1 = ~ ラ第 シ 減 12 ナ ル 7 X 所 1) ナ 1) 斯 例

ル

明

治

1)

七年 Ŧi. 月

広

戸長 水野金之助 印

戸長 七井 土井 醇 郎 印

Ш 吉村 Ш 吉次郎 印

戸

長中

池 重 則 印

戸

戸 長温品村 Щ 常 頼

印

戸 長府 西村 尾生一 郎 印

戸 長仁保 沢田七右衛門(印)

長江 久島

岡 才十 印

戸

戸 戸 厂長 紫村: 長井上式太郎警周屋村 雄次郎 印 印

戸 戶 長 宮 原 村 長和庄村 盛 敬 篤 印

戸

長海田

浜岡文三郎

印

戸

長畑

賀田村

辺

信

篤

印

戸

戶 長中野村

Ш

康

義

印

戸

々木忠兵衛代理

筆生 長井上温造代 熊谷定之助 印

筆生 長矢 宇都宮信宜代理 宇都宮謙助 印

戸

筆生

荒

谷

直

助 (印)

戸

理

戸

富村

永

Œ.

男

印

筆生 戸 長 久留島重 奥海田村 三宅兵三郎 助 代 印 理

戸長 片点 Ш 直太郎 代 理

筆生

新谷惣兵衛

印

戸長 菅尾恭助平谷押込川角村 戸長 三沢盛之助 印 印

戸 長苗 神藤村 文吾 印

戸 長熊 佐々木亮之輔(印)

戸 長上 小瀬野村 喜 平 印

戸 長下

小ヶ幡

恂

造

印

614

第四章 近・現代の資料

円十 銭百二	麦	米	名
五百七 二十一			義
円十 銭百二	七石三元	十八石品	数
円十 銭 百二 十 万 九十 十 五 十 五	十九升十二百六十	八升四合	量
	円十一建	武十一万二千·	金
	円石合け	均 一 金 石 五	備
金石備	金三	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	考

広島県令千田貞暁殿

筆生

内海群策(印)

戸 長大屋村 島村 戸長 末永徳三郎 地 神一 印

印

筆生 神田健次郎 戸長 尾崎亀四郎瀬戸島 印

戸長 中廹小四郎 坂村 印)

戸長 尾曽越正邦代理

小	大	黍	栗
豆	豆		
1	升百七十二石二	斗七升二石一	九百七十三石三
我	一十銭	八百十六円五十	十七銭
円 二 付金五	円 二付金五	一円 二付金三	円二付金三
	豆 百九十石四斗二 九百五十二円十 我	豆 八百七十二石二 四千三百六十円 豆 百九十石四斗二 九百五十二円十 ま 3	豆 八百七十二石二 八百十六円五十 豆 八百七十二石二 四千三百六十円 サ 十銭 升 大百五十二円十 銀 大百五十二円十

菜	葉	実	井	蕎	蜀	小	大	黍	栗
種	莨	綿	薯	麦	黍	豆	豆		
升十二石九斗四	二百九十斤	九百三十一万五	三十万六千貫目	五百六石四斗七	五百七十三石七	五十石四斗二	升百七十二石二	斗七升二石一	斗九升 十三石三
一十銭	十七円四十銭	百七十八円八銭	三千九百七十八	十一銭	千七百二十一円	我	一十銭	一銭	十七銭
一円替ノ見込	六銭ノ見込	込 金八銭/見 見	一銭三厘	石=付金三	円 一付金三	円二付金五	円二付金五	円二付金三	円二付金三

毛	髢		漁	蜜	石	製	砂	楮	葉	麻
筆			網	桝	灰	茶	糖	皮	藍	
百四十万本	八千貫目		六万七千反	二千石	九十万俵	九百斤	四万斤	二百二十貫目	二万七千三百二	千二百貫目
二万千円	一万五千円		六万六千七百五	四千円	三万六千円	四 十 五 円	六千円	四十四円	六十二銭五厘	三百円
五厘ノ見込 上中下概シ		銭	シ金二十五	二千円	シ金四銭	四銭二十分金	シ金十五銭	金二十銭	四銭五厘	金二十五銭
	The State			I p	B 30		1		dom:	1
金	ョリ受地方税	国庫及	海	貝干	貝干	干	煎	老干	蠣	海
2	文 祝	及	参	瀬	鳥	鰈	鰯	海	1100	苔
			五千五百九十斤	三千斤	二万五千斤	三十六万枚	三千五百石	二万千斤	千四百三十五石	千九百五十万枚
	円	_	円三	五.	五五千	三	— 万	千五	五. 千	十四円万
	円二十銭六厘	万千八百十四	円二千二百三十六	五百七十円	五千五百円	一千百六十円	万五百円	千五十円	五千七百四十円	十円 四万八千七百五

第四章 近・現代の資料

												60 3	_					_	
	廷納増		雑種	金	備荒公貯			地	!	名	明治			差			ā	-	
	増額		往稅		公貯	100		租	i i	義	十六			引		****		_	
円八十三銭二厘	六千四百二十四	円五十七銭五厘	八百六十	三十七銭	千八百三十九円		-	十円七十三銭		金額	年中弁出					七万七千百円			
ト予定シーヶ年ノ高						三十七円五十一	地価三百三十四	一畝八歩		備	物及消亡物之金額比較概表		厘	百二十四万千九百四円	髱等ノ如キ仕入金	毛筆ノ毛軸網ノ麻蜜桝	○四円八銭八厘	1 = - ;	
上ヶ段年	四百九十六					銭	十四万三千五百	十二町四反		考		安芸郡		四円八銭八	ラ引去ル	蜜桝ノ肥料			役給引去則上
-	,				,													_	
灯油		証印税		売薬税	紙税	証券印界	職概稅	牛馬税		莨税			酒税		営業税		協議費	200 Carlo 100 Ca	ル割戸割
五万五千三百七		七百八十円四十	四銭四厘	三百十二円二十	十四銭五厘	七百六十五円六	十七円	百十七円	銭	百三十七円四十	0	十円二十二銭六	一万四千八百七	三十三銭五厘	七千百八十三円	厘	一円四十八銭一二万千四百八十		円七十一銭四厘
一ヶ年凡金二円																			

N .	必用襍費			食穀		煙草		酒酢醬油	食塩		肥料	
	二十六円 二十六円			百一万六百十二		四万五千円	I Z	十一円八十銭十五万千五百九	四十六銭四十八円		十三円万九百三	
一ヶ年十八円二十五銭全郡デ節倹シ概一戸一日金五銭乗欠クヘカラサル費用極メ	附油其他交際上義務費等日家屋修繕及ヒ衣服或ハ長賓	額ヲ見ル	六百八十八戸則上文ノ十銭是ヲ全郡戸数二万二升トシ石五円相場ニ	一戸米麦雑穀ヲ合算シ一日	五万人ヲ以積算ス一ヶ年金九十銭トナ	草量丘十目七弋十丘銭トン一戸概シ二人トシーケ月煙	リ (4) - (ト目算シテ算定シタルモノ平均二合代価概シー銭五厘	他県郡ヨリ輸入高	付金三	廿六歩	此全部戸数一ヶ年上段
				1								
計		炭	船舶修繕		材木		薪	墨	紙	鉄	薬品	
3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3		四千五百六十円	一万千九百十円		五万六千円	四厘七十七鈞	四万五千三百二	五百円	十銭	六千円	三千三百円	
	見込見いる。一貫日二付金三銭ノ	他県郡ヨリ買入高十五万二	船大小共三千九百七十艘概 が修繕費一艘ニ付金三円ノ		十輪	第	他県郡ヨリ輸入セシ金額概		他県郡ヨリ買入高		八十円買入則上段医師四十一人一ヶ年平均金	惣戸数則上文ノ金額トナル

(栃 原 村	町村名 区域(旧町村名) 町村役場位置	安芸郡	広島市 広島 区 字中島新町	市 名 区域(旧区名) 市役所位置	広島県令甲第二十二号別表	明治二十二年三月八日 広島県知事千田貞暁	ル旧町村名へ大字トシテ之ヲ存ス	等別表之通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス但合併ニ係	市町村制施行ニ付市町村区域名称市役所町村役場位置	広島県令甲第二十二号	「芸備日日新聞」(明治二十二年三月九日)	4 市町村制施行二付			三十六円五銭四	差 引 百二万九千七百
熊野村	焼山村	中野村	畑賀村	奥海田村	海田市町	船越村	仁保島村	府中村	温品村	戸坂村	牛田村	下瀬野村	上瀬野村			
熊野村	焼山村	中野村	畑賀村	奥海田村	海田市	船越村	仁保島	府中村	温品村	戸坂村	牛田村	下瀬野村	上瀬野村	角村	平谷村	押込村

本庄村

一苗代村

字苗代

矢野村

矢野村

第四章

近・現代の資料

II

坂 村 坂

村

大屋村

大屋村

吉浦村

吉

浦

江田島村

江田島

和庄村 莊山田村

荘山田村

和庄村

宮原村

宮原村

警固屋村

警固屋村

瀬戸 島

渡子島

倉橋島

渡子島村 瀬戸島村

倉橋島村

蒲刈島

蒲刈島村

[5] 察 配 置

芸備日日新聞」(明治二十二年五月三十一日)

広島県録事

〇広島県令甲第八拾四号

明治二十年十月広島県令甲第九十二号警察配置区画表

別冊之通リ改定ス

明治廿二年五月廿五日

(別冊)

広島県警察配置区劃

警察本部 位置安芸国広島市大字水主町

総管轄安芸国広島市一円

広島警察署

位置安芸国広島市大字大手町一丁目

広島市大字江波ニ巡査駐在所ヲ置ク

警察署

呉

総管轄安芸国安芸郡一円及佐伯郡 位置安芸国安芸郡和庄村 ノ内三高村外

八ヶ村

直轄村

安芸郡ノ内

和庄村

庄山田

村

宮原村

吉浦: 村 押込)

大屋村

熊野村 本庄村 大字(标原、 川苗角代

焼山村 熊野村蒲刈島村へ巡査駐在所ヲ置ク 蒲刈島村

(以下略)

広島県知事千田

「貞暁

安芸郡熊野村役場

四 等

 \equiv

等

廿円以·

上

廿五円未満

廿円未満

九銭

四拾三銭

三 拾·

樂

拾八円未満拾六円

以 以

拾

八円

以

三拾弐銭 三拾五銭

拾六円·

未満拾四

円

拾四円未満拾弐円以

今般熊野尋常小学校授業料細則別紙之通改定仕候条御

認可相成度此段稟申候也

明 二十四年六月三日

安芸郡熊野村長世良保郎

広 島県知事宛

熊野尋常小学校授業料細

則

+

八銭

六円以· 七円以· 八円

+ 九 八 七 六 Ŧi.

等 等

弐拾銭

弐拾三銭 弐拾六銭 弐拾九銭

拾円未満

以

1 E 等 等 等

拾弐円未満

拾円以上

前年

-度村税·

Ŀ. 納

拾六 拾

第壱条 ノ多寡ニ依リ之レヲ徴収スルモ 熊野尋常小学校生徒授業料

額

第二条 授業料へ毎月三日 = リ八日迄ニ上納 1 ス

ス

ル

モ

1

+

四

拾弐銭 拾四

四円

未満

三円

以 以上 以

Ŀ

銭 銭

五円未満 六円未満 七円未満 八円未満

四円

Ŧi.

円

Ŀ

1 ス

第三条 納 額

村税上

依リ授業料 ノ等級

ラ定

4

ル

コ

1

六等

九 拾

弐円五十銭未満弐円以上 三円未満弐円五十銭以上

十五.

銭

十七等

弐円未満

円

五十銭以上

1

銭 銭 銭

円五十銭未満壱円以上

左ノ如シ

授業料額 村税上納額歩合表

等 級 金 五拾銭

等

四

I拾六

銭

三拾円未満廿

五円以上

一拾円以

第四章

近・現代の資料

等

十 九等 等

六

Ŧī.

銭

銭

壱円未満

Ŧi. 十銭未満

五十銭以上

II 資 料 編

第四条 村税納 額 ハ戸 主家族ヲ登校生徒 ノ家元ョ リ上

納スル 村税通算シ授業料ヲ定ムルモノトス

第五条 業料金全額ヲ余ハ半額ヲ徴収スル 一戸ョリ弐名以上登校スル生徒ハ其壱人分授 モ ノト ス

但シ已ムヲ得サル事情アルモノハ米麦ニ限リ時価

第六条 ヲ以テ折算シ代納 学区外ョリ通学又ハ寄留スルモノハ七等授業 スルヿヲ得

料ヲ上納スル

モ

1 トス

但シーケ年以上寄留スルモノハ第三条ニ依リ上納

ス ルモノト

六月三 日熊奉第一一号小学校授業料細則稟申之件認可

明治廿四年六月十二日

広島県知事

鍋島幹回

ス

第一七八六号

熊野村役場

熊呈第六八号尋常小学校生徒授業料ノ件伺之様へ左之

通り心得フベシ

明 治弐四年七月六日

第一条ハ意見之通

第二条ハ意見之通

第三条ハ町村制第□二条ニ依リ処分スベシ 但町村会ノ決議ヲ要セズ知事 ノ認可ヲ受クヘジ

但知事ノ認可ヲ受ケ免除スル事ヲ得

[7] 郵便局設置

●郵便局移転改称

安芸郡焼山郵便局は来四月一日よ

(通:

「芸備日日新聞」 (明治二十六年三月二十二日)

信省告示第九十号) り同郡熊野村へ移転して熊野郵便局と改称せらる

[8] 道路をめぐる県庁との紛争

芸備日日新聞」 (明治二十七ごろ)

◎熊野村民の激昂 (県庁の不親切に対して)安芸郡熊

安芸郡長栗原幹回